

あいち生物多様性戦略 2020 及び 自然環境の保全と再生のガイドラインの概要

1. あいち生物多様性戦略 2020について

- COP10で採択された「**愛知目標**」の達成に向けた本県の行動計画
 - ・現行の「あいち自然環境保全戦略」(平成21年3月)の見直し年次を前倒して策定
 - ・「**あいち方式**」を中核的な取組として位置付け
- 「**あいち方式**」の先駆性・戦略性
 - ・多様な主体のコラボレーション（協働）のもと、人のつながりを育みながら「生態系ネットワークの形成」を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現
 - ・開発と生物多様性の保全の調和を目指す**我が国初の仕組み**である「あいちミティゲーション」を導入
 - ・人と自然の関係を現代に甦らせ、**地域共有の財産（コモンズ）**としての「新しい里山」づくりを提唱
 - ・県内の9地域において、地域特性に応じた生態系ネットワークの形成を展開
 - ・行動計画の個別取組を統合的・横断的に推進

2. 自然環境の保全と再生のガイドラインについて

- 新戦略の推進ツールとして策定

※ 来年度から**2か年試行** ⇒ 定量評価手法の有効性・信頼性などの検証、改善
- 多様な主体が、共通の目標に向かってコラボレーション（協働）により生物多様性保全の取組を行う「**あいち方式**」を進めていく際の基本的な考え方や手順を示したもの。
 - ・以下の具体的なツールを提供

「生物多様性ポテンシャルマップ」	→ 目標の共有
「あいちミティゲーション定量評価手法」	→ 取組成果のものさし
「生態系ネットワークチェックリスト」	→ 気付きの促進

あいち生物多様性戦略 2020

- ・理念・目標
- ・行動計画
- ・地域への展開

自然環境の保全と再生の ガイドライン

〔試行版〕

- ・コラボレーションの勧め
- ・各ツールの使い方

あいち生物多様性戦略 2020 ~愛知目標の達成に向けて~ の概要

2010年 COP10

戦略計画 2011-2020 (愛知目標)

【第1章】理念と目標

～「人と自然の共生」に向けた、あいちのコラボレーション～

基本目標 「人と自然が共生するあいち」の実現

目標 2020 生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の展開

愛知県独自の取組 ～あいち方式～ ⇒ 「自然環境の保全と再生のガイドライン」により推進

県民、事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーション（協働）しながら、効果的な場所で生物の生息生育空間の保全・創出の取組を行うことにより、生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら「生態系ネットワーク」の形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する、本戦略の行動計画を統合的に推進・実現していくための仕組み

●生態系ネットワーク

- 開発等によって分断された自然を、在来種により成り立つ緑地や水辺など生物の生息生育空間を適切に配置することによってつなぎ、地域本来の生態系を保全・再生する。



あいち方式

生態系ネットワーク
多様な主体が、地域の協議会などのコラボレーション（協働）により、生物生息生育空間を確保する方法（協議会への参加）

あいち ミティゲーション

開発などにおける、自然の保全・再生とネットワーク化を進める方法

●あいちミティゲーション

- 開発に伴う影響の回避・最小化・代償にあわせた、開発区域内外での自然環境の保全・再生を促す、我が国初のしくみを導入。
- 現行の大規模行為届出制度の運用に合わせて、来年度から試行。

目標（グランドデザイン）を共有

●生物多様性ポテンシャルマップ

- 生きものの生息適地を図示。（我が国初）
- 多様な主体による自然環境の保全・再生の目標の共有に活用。

●あいちミティゲーション定量評価手法

- 取組の成果を「見える化」するための共通のものさしを提供。（自治体として我が国初）
- 開発時の回避・最小化の検討にあたって、複数案の比較が容易に。

簡単なチェックで効果的な取組を実現

●生態系ネットワークチェックリスト

- 多様な主体による生態系に配慮した取組の確認と気づきを促し、コラボレーションを進めていただくためのリストを提供。

【第2章】生物多様性の危機

～転換点にある私たちの暮らし～

○地球の生物多様性の危機

- 地球の歴史でもっとも急な生物の絶滅（化石記録の100～1,000倍）
- 約38億年かけてつくられた生物多様性をこの数百年で破壊

○あいちの生物多様性の危機

- 植物680種、動物528種がレッドデータブックに記載
- 生物生息場所も大きく減少

【第3章】行動計画

～「自然との共生」心豊かな暮らしに向けたチャレンジ～

- A.生態系ネットワークの形成
- B.経済と生物多様性の調和
- C.野生生物の保護と管理
- D.生物多様性の価値の共有
- E.多様な主体の参加と協働

214の行動計画

32の数値目標



あいち方式で統合的に推進

【第4章】地域への展開 ～気づき・まもり・つなげるコラボレーション～

- 多様な主体が目標の共有のもと、コラボレーション（協働）する場として、県域を9地域に区分し、地域ごとに「生態系ネットワーク協議会」を設置し、取組を展開
- 県内各地域の特性を踏まえ、各協議会において推進が期待される主な取組を提案



【第5章】推進の仕組み ～評価・点検と役割分担～

- 行動計画の進捗状況について評価と点検を行い戦略を推進
- 県民、事業者、NPO、研究者、行政といった各主体に期待される役割分担とコラボレーション（協働）の重要性を提示